

## ◎景気ウォッチャー調査[2021年3月]

### 2021年3月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を7.0ポイント上回る53.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「卒業、入学などの祝い」で外食利用の機会が増加する時期とGo To Eatキャンペーンの利用期間が重なり、売上が大幅に増加している。」(一般レストラン)、「来客数や売上が前年を上回っている。また、イベント動員も新型コロナウイルスの影響を余り感じられなくなってきた。」(百貨店)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を8.0ポイント上回る52.7となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「データセンターやIoTに関する引き合いが以前と比べ明らかに増加してきている。年度末という理由もあるかもしれないが、販売量は確実に増加している。」(通信業)等の理由から、「良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.8ポイント上回る51.5となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「各業種で求人数が増加してきている。特に医療系は求職者の動きも活発になってきており、新型コロナウイルスの一段落を受けて、シビアに反応していた医療従事者も動き出している。」(人材派遣会社)、「採用意欲を失っていた輸送用機器関連メーカーが少しずつではあるが人員を増強し始めている。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を12.5ポイント上回る62.5となった。

	3月	2月	前月差
合計	53.4	46.4	7.0
家計動向関連	52.7	44.7	8.0
企業動向関連	51.5	50.7	0.8
雇用関連(参考値)	62.5	50.0	12.5

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を3.9ポイント下回る53.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「販売が落ち込む時期になり、新型コロナウイルス禍で営業活動も鈍くなるため、景気はやや悪くなる。」(乗用車販売店)、「現状は売上が前年は上回っているものの、所得減少による節約により、今後は売上が減少する。」(スーパー)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.3ポイント下回る52.2となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「国の景気対策等が国民の現状に寄り添う対策でなくなり、貧富の差が一層広がる。」(食料品製造業)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント下回る51.5となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスが終息することを見越して人材確保に動き出している飲食店や企業が増加しているため、今後、景気はやや良くなる。」(民間職業紹介機関)、「新卒採用に積極的な企業が少しずつ増加してきているため、今後、景気はやや良くなる。」(学校)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を3.7ポイント上回る62.5となった。

	3月	2月	前月差
合計	53.1	57.0	-3.9
家計動向関連	52.2	57.5	-5.3
企業動向関連	51.5	54.4	-2.9
雇用関連(参考値)	62.5	58.8	3.7